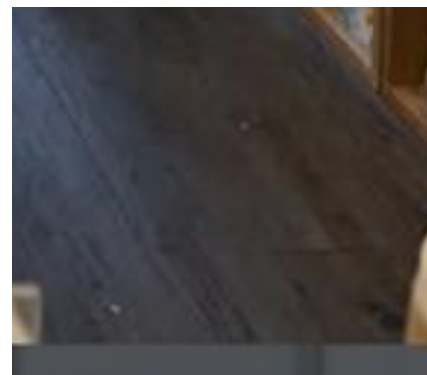
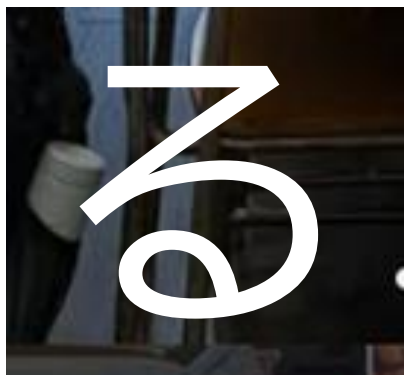
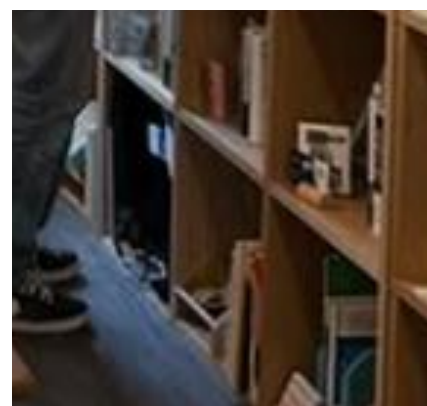
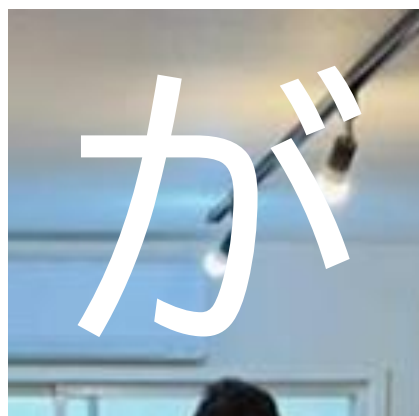
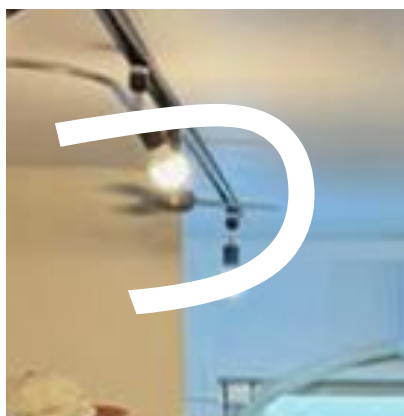




# こまごまをこまごまに こまごまNEWS

Vol.90  
2026年04月号

発行:責任編集  
狛江市岩戸北  
3-18-8-701  
分かりやすい政治を  
伝える・維新の会



4月、狛江駅南口ロータリーにブックスタンドHACOがオープンしました。個人が自由に選書した本を一棚ごとに販売、本の無料交換所コーナー、独立系出版社の書籍を販売するスペースなどを併設する小さいながらも個性的な書店です。仕掛けたのは、長年にわたり本の魅力に着目した企画を提案し続ける山本雅美さん。新しい店舗に託したいいろいろな構想をお聞きしてまいります。

**本のチカラで人と人をつなげていく、ふらっと立ち寄ったらリセットできる、そんな場を目指します。**



インタビューした山本雅美さん

**「狛江から本屋さんになる？」という声がある**

当時、多くの狛江市民も心配されていたと思うんですが、私も「街から書店がなくなるのって、いやだな。自分たちで本に関する痕跡を何か残せることをしたい」と思うようになりました。いろいろ物件を探していたとき、小田急さんから狛江駅の構内工事期間中なら使用できるスペースがあるという話をお聞きしました。それが狛江駅改札横にできた「エキナカ本展」です。まちの50人

が選んだ、50冊のエキナカ展示という企画には延べ7000人もの方々が足を運んでいただきました。

**そうした動きがHACOに繋がっていくんですね**

その後、リアルな拠点が欲しいなという思いが強くなっていくんですが、同時並行的に「旅する本棚」という本を交換する企画を市内あちこちのイベントで行っていました。当然ですが「いい企画だけど、わたし今、本を持っていない」というお客様も多くいらっしゃいました。可能性はあるけど、

(聞き手 三宅まこと)

起点になったのは「BOOK LIFE PARK」と名付けた本に関するイベントです。狛江駅前でも令和2年3月に実施しようとしていましたが、コロナ禍で中止になってしまいました。その後、(スポーツジムの)BLEUE多摩川さんの一角をお借りして、「多摩川図書館」という企画を行いました。狛江市図書館の協力も得て、多摩川や水辺に関する蔵書をお借りしました。本を街に持ち出そうという趣旨です。そんな時、狛江の啓文堂書店さんが閉店するという衝撃のニュースが飛び込んできました。



エキナカ本展は、小田急線狛江駅構内工事の影響で閉店した改札横店舗跡地で令和6年1月7日から約1ヶ月半の期間限定で実施されました。展示会場内に置かれたノートは交換日記的に使われ、たくさんの方々が本に関する熱い思いを書き残されました。



本の交換所「旅する本棚」

本の交換だけでは続けていきません。そこで、シェア型書店の



撮影協力 ブックスタンドHACO

**今後、HACOはどんなお店を目指しますか**

ここは大きな場所ではなく、本に接してもらおう場所ですけど、小さなドキュメンタリー映画の上映会も計画しています。作品を観て、だったらこういう本を読んでもみようとか、ワークショップの開催等、市内の様々なプレイヤーの皆さんと繋がる場に結果的になればいいと思います。お店はだいたい21時までやっていきますし、フラットに来ていただき、珈琲を飲みながら本を読んだりリセットしていただければ嬉しいです。本にはすごいチカラがあります。本で人と人がつながるような、そんな場所を目指していきます。

**紀伊國屋書店狛江店さんとも連携していますね**

HACOからすぐの紀伊國屋書店さんでは、入って左側スペースに「BOOK and BENCH H」というコーナーを持たせていただきました。コンセプトは、「みんなのでつくるまちの本屋」。



定期的にてーマを変えて、多様なプロフィールを持つ人たちの選書販売していただくスキームになります。



←ブックスタンドHACOの情報、営業時間等はインスタグラムをご覧ください。